

資料1－3

本省様式

令和 年 月 日

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名： 長久手市地域公共交通会議

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を 受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・B・C 評価	A・B・C 評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成でき なかった場合には、理由等を分析の上記載】
中央線右回り (名鉄バス株式会社)	市役所～市役所	(R4年度事業二次評価内容 R5.3.10付通知) Nーバス利用者への継続し た情報提供とともに、アン ケート結果の分析から移動 の変化の実態等の把握を進 め、利用者にとってより良い 公共交通になることを期待 (評価内容の反映・事業実 施) アンケートの分析結果から 得られた課題を参考とし、長 久手市地域公共交通計画 (計画期間：R6年度～R10 年度)における基本方針や 計画事業を定めた	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、中央循環線と西部循環線を一体にし、その一部を中央線として運行系統を引き継ぎ運行を続けている。	A 中央線は、人口の多い市西部を中心に、市南西部も走行する路線である。病院や大型商業施設付近のバス停からの乗降や、市南西部にある住宅街からの乗降が多く、通院や買い物など市西部及び南西部の市民の生活に必要な移動手段となっている。 65歳以上の運賃有償化及びコロナウイルスによる出控えの影響を考慮した目標値を設定したが、前年度と比べて利用者数は増加した。	●移動ニーズの変化に適した市内公共交通の路線体系を構築するため、東部地域におけるデマンド交通の実証実験をR6年度・R7年度に行う(R6年は10月・11月の2か月間で実施済)。 ●利用者数について、中央線・西部線では増加傾向、三ヶ峯線では減少傾向にある。各路線は市民の生活に必要な移動手段となっているため、利用促進に努めるとともに、地域に合ったNーバス路線の構築を目指して事業に取り組む。
中央線左回り (名鉄バス株式会社)	市役所～市役所		A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、中央循環線と西部循環線を一体にし、その一部を中央線として運行系統を引き継ぎ運行を続けている。	A (右回り) 【実績：令和5年度(R4.10～R5.09)】 利用者数：25,854人/年、1便当たり利用者数：11.3人/便 【目標：令和6年度(R5.10～R6.09)】 利用者数：24,480人/年、1便当たり利用者数：10.7人/便 【実績：令和6年度(R5.10～R6.09)】 利用者数：26,987人/年、1便当たり利用者数：11.8人/便(達成) (左回り) 【実績：令和5年度(R4.10～R5.09)】 利用者数：22,895人/年、1便当たり利用者数：11.9人/便 【目標：令和6年度(R5.10～R6.09)】 利用者数：21,760人/年、1便当たり利用者数：11.2人/便 【実績：令和6年度(R5.10～R6.09)】 利用者数：24,161人/年、1便当たり利用者数：12.5人/便(達成)	
西部線右回り (名鉄バス株式会社)	市役所～市役所		A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、中央循環線と西部循環線を一体にし、その一部を西部線として運行系統を引き継ぎ運行を続けている。	西部線は、人口の多い市西部を走行する路線で、病院や大型商業施設近くのバス停からの乗降が多く、通院や買い物など市西部の市民の生活に必要な移動手段となっている。 65歳以上の運賃有償化及びコロナウイルスによる出控えの影響を考慮した目標値を設定したが、前年度と比べて利用者数は増加した。 (右回り) 【実績：令和5年度(R4.10～R5.09)】 利用者数：22,888人/年、1便当たり利用者数：11.9人/便 【目標：令和6年度(R5.10～R6.09)】※長久手市生活交通確保維持改善計画(令和6年度事業分)における目標値 利用者数：21,930人/年、1便当たり利用者数：11.3/便 【実績：令和6年度(R5.10～R6.09)】 利用者数：24,710人/年、1便当たり利用者数：12.8人/便(達成)	
西部線左回り (名鉄バス株式会社)	市役所～市役所		A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、中央循環線と西部循環線を一体にし、その一部を西部線として運行系統を引き継ぎ運行を続けている。	A (左回り) 【実績：令和5年度(R4.10～R5.09)】 利用者数：24,270人/年、1便当たり利用者数：10.6人/便 【目標：令和6年度(R5.10～R6.09)】 利用者数：23,260人/年、1便当たり利用者数：10.1人/便 【実績：令和6年度(R5.10～R6.09)】 利用者数：24,747人/年、1便当たり利用者数：10.8人/便(達成)	
三ヶ峯線 (名鉄バス株式会社)	市役所～市役所		A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 平成28年4月1日のNーバスの路線見直しにより、三ヶ峯線早朝便は廃止し、三ヶ峯線福祉の家発便は三ヶ峯線として運行系統を一体にした。 令和3年4月1日のNーバスの路線見直しにより、平休同一の運行本数から平日便、休日便として再編が行われ運行を続けている。	B 三ヶ峯線は、人口の少ない市東部を走行し、市南東部の交通不便地域となっている住宅街とリモ駅や公共施設を結ぶ路線である。また、交通不便地域に住む小学生が、通学に利用するとともに、当該地域の住民にとって、病院や商業施設へ移動する手段として利用され、市南東部に住む市民の生活に必要な移動手段となっている。 東小学校の児童による通学利用が減少したため、前年度と比べて利用者数は減少し、目標も未達成となった。 【実績：令和5年度(R4.10～R5.09)】 利用者数：18,327人/年、1便当たり利用者数：10.9人/便 【目標：令和6年度(R5.10～R6.09)】 利用者数：18,950人/年、1便当たり利用者数：11.2人/便 【実績：令和6年度(R5.10～R6.09)】 利用者数：15,364人/年、1便当たり利用者数：9.1人/便(未達成)	